阿賀野市立吉田東伍記念博物館

友の会通信

2015-2016
No.2（通巻73号）
2015.11.1発行

■ 目次

11・12月の博物館・友の会行事のお知らせ …… 1
会員の研究ノート …… 2～3
最近の友の会行事から ／ 友の会伝言板 ／ 編集後記 …… 4

発行：吉田東伍記念博物館友の会　〒959-2221 阿賀野市保田1725－1（阿賀野市立吉田東伍記念博物館内）
TEL 0250-68-1200　FAX 0250-68-5016　web版友の会通信 http://wind.ap.teacup.com/togo/

博物館HP　http://www.city.agano.niigata.jp/togo_museum/index.html　E-mail　y.togo@oregano.ocn.ne.jp

－11・12月の博物館・友の会行事のお知らせ－

市民文化講演会2015
「五頭山麓の歴史と文化」を開催します！

日　時	**平成27年 11月14日（土）14:00～15:30**
演　題	**五頭山麓の歴史と文化**
講　師	川上貞雄 さん（日本考古学協会会員、新潟県考古学会会員、郷土史家）
会　場	阿賀野市立吉田東伍記念博物館
参加費	友の会会員は参加費無料（会員以外は博物館入館料が必要）
申し込み	資料準備の都合上、前日までに博物館へお申し込み下さい。

第16回研究発表会を開催します！

日　時	**12月26日（土）13:30～15:00**
発表テーマ	**新潟県北部の石造物を歩く**
発表者	小林　弘 さん（吉田東伍記念博物館友の会会員）
会　場	阿賀野市立吉田東伍記念博物館
参加費	友の会会員は無料（会員以外は博物館入館料が必要）
申し込み	資料準備の都合上、前日までに博物館へお申し込み下さい。

阿賀野市立吉田東伍記念博物館

企画展「わが友 野口英世 ふたたび ～石塚三郎ガラス乾板写真パネル展～」（仮題）

会期：平成27年11月下旬～平成28年1月中旬

※12月26日の第16回研究発表会終了後に解説会の開催を予定。

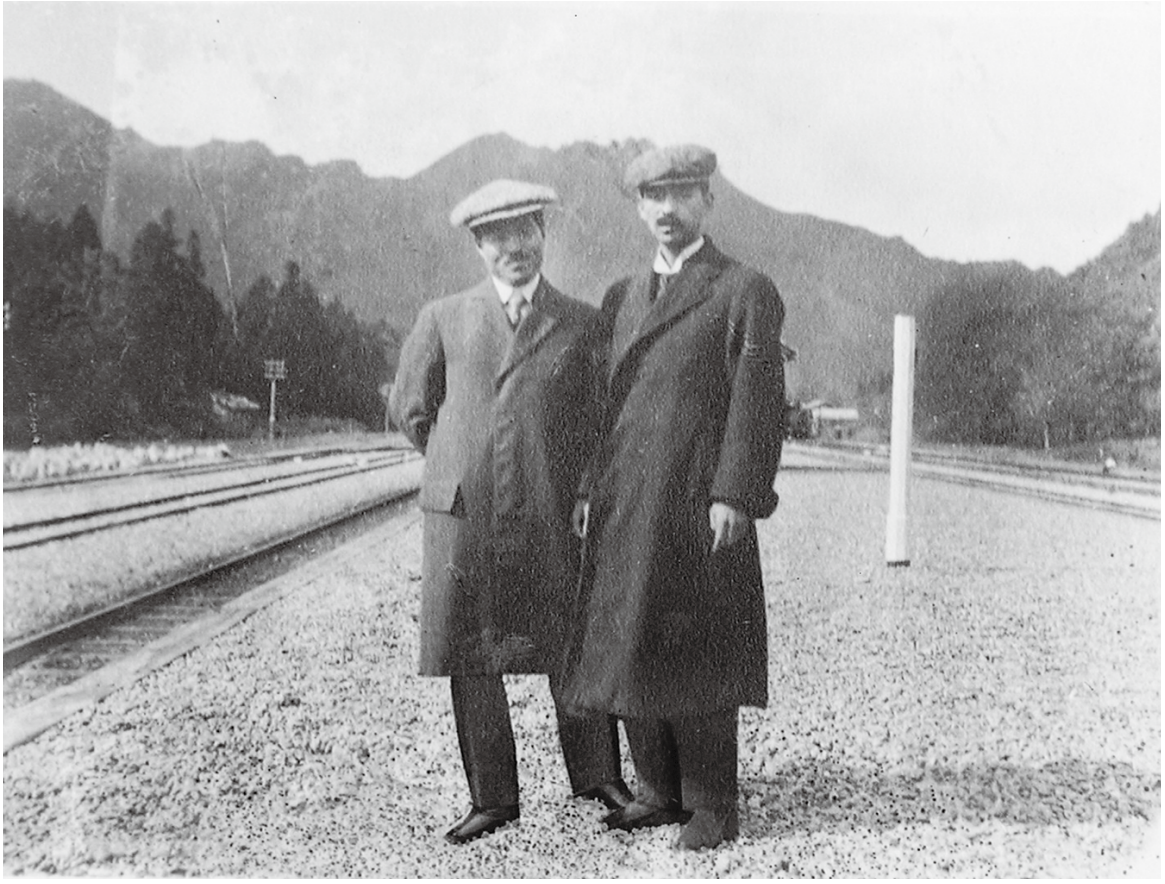
岩越線（磐越西線）日出谷駅（新潟県阿賀町）に降り立った野口英世とその親友（石塚三郎）

吉田東伍記念博物館友の会会員
（吉田東伍記念博物館 館長） 渡 辺 史 生

2015年は、米国を拠点に活躍した医聖・野口英世がただ一度、15年ぶりに日本への帰国を果たした時から100年目の年にあたります。

阿賀野市立吉田東伍記念博物館では、野口が帰国した際に撮影された写真のオリジナル原板(版)（ネガ／ガラス乾板）を多数所蔵しており、2007年には新収資料紹介企画展『石塚三郎ガラス乾板写真パネル展「わが友野口英世」 親友 野口英世とその母 ― 石塚三郎が撮影保管していた写真原板から』を開催し、好評を得ました。

博物館ではその後も写真原板の保存措置、整理を継続しつつ、博物館友の会会員の協力も得ながら、それぞれの画像に関する情報収集・分析・調査等を行ってきましたが、その作業の過程で新たな事実も判明しています。その一端を紹介しましょう。



▲ 岩越線（旧岩越鉄道、現在のJR磐越西線）［日出谷（ひでや）駅］（新潟県東蒲原郡阿賀町）のプラットホームに立つ野口英世（左）と石塚三郎（右）のツーショット写真（大正4年（1915）10月26日撮影）この写真はこれまで 福島県野沢駅で撮影されたもの として紹介されてきた。
石塚によると自動シャッターで撮影された写真らしいが、吉田東伍記念博物館所蔵（石塚三郎旧蔵）の写真乾板はプリントを近接撮影したと思われる複写乾板であり、プリントの左下方には修正の痕跡が認められる。オリジナルのプリント、ネガの所在は不明である。
伝記本などで用いられてきた画像は大半がこの修正痕のある複写画像をマスターとするものである。

大正4年（1915）10月26日～27日、野口英世は帰国・日本滞在に助力してくれた旧友、石塚三郎の顔を立てようと、タイトなスケジュールを調整して新潟来訪・講演の依頼に応じました。前年に全通したばかりの岩越線（旧岩越鉄道、現在のJR磐越西線）、猪苗代駅早朝6時半発の新潟行きの汽車を利用しての来越でした。

上の画像はその途中「福島県野沢駅のプラットホームで撮影された写真である」とされ、伝記本などでたびたび紹介されてきた写真です。

ところが、画像の分析をすすめていた吉田東伍記念博物館と同博物館友の会の数次にわたる現地調査によって、実際の撮影場所は福島県野沢駅ではなく、新潟県日出谷駅であったことが判明。従来の撮影地伝承の誤りが確認されました。

何故、新潟県日出谷駅撮影の写真が福島県野沢駅のものとされ、長く伝えられてきたのか。それなりの理由があるのかもしれません。野口の一時帰国100年を機に、また一つ新たな謎、研究テーマが提起されたといえるでしょう。

◀現在の［日出谷駅］のプラットホーム（新潟方面を望む。2014年11月9日撮影）正面の山は引入沢山（ヒキイレサワヤマ／460.9m）。写し込まれている山の稜線の一致などにより、二人が降り立って撮影した駅はここ以外にないと特定された。

現在の［野沢駅］（福島県耶麻郡西会津町）のプラットホーム（新潟方面を望む。2014年11月9日撮影）。「野沢駅で撮影」とされてきた写真とでは、写し込まれている山の稜線をはじめ、ロケーションが全く異なることが解る。▶

※本稿は友の会通信（ウェブ版）掲載の記事を再録したものです。

最近の友の会行事から

8月20日(木)・21日(金)

佐渡の能楽と能舞台 ～薪能鑑賞～

池田哲夫さん（新潟大学人文学部教授）の御案内で、佐渡の能舞台と津村禮次郎氏が演じる春日神社能舞台での薪能を鑑賞しました。2日間の研修旅行で、佐渡金銀山の魅力も再認識。世界遺産登録への期待が高まります。

9月27日(日) 星空への招待 2015

友の会会員の廣田正博さんのナビゲートで、月・土星・二重星などを天体望遠鏡で観察しました。

◎中秋の名月について

中秋の名月とは、旧暦の秋とされる7月から9月の、ちょうど中間、つまり旧暦の8月15日に見える月のことをいいます。

月を見上げる高さは季節によって変わりますが、秋の月は冬のように低すぎず、夏のように高すぎず、また同じ高さの春よりも空気が澄んでいるので、月がきれいに見えるとされています。

ただし、かならずしも中秋の名月が満月ということではなく、今年（2015年）でいえば満月は9月28日になります。

天体望遠鏡で月を観察すると、たくさんのクレーターを見ることができます。しかし、満月に近くなると、クレーターの影が小さいために、むしろ分かりづらくなります。クレーターを観察するには、陰影がはっきりする半月の頃が一番適しています。

（友の会会員　廣田正博）

10月12日(月・祝) 阿賀野市立吉田東伍記念博物館ミュージアムコンサート 2015

Togo Museum Ensemble　第17回演奏会 ～野口英世と親友・石塚三郎の生きた時代と音楽～

チャイコフスキー、R・シュトラウスから日本歌曲まで、野口英世（1876-1928）と石塚三郎（1877-1958）が生きた時代、およそ100年前に作曲された音楽を聴きました。出演は、バリトン：塙康平、ピアノ：小林美知子、ヴァイオリン：田中陽子・奈良秀樹、ヴィオラ：竹内由木子、チェロ：安部信之介の皆さんでした。

…… 友の会伝言板 ……

事務局より

① 新潟県内博物館等友の会連絡会の「第４回新潟県博物館等友の会ミーティング」（主管：信濃川大河津資料館友の会）が開催されました。日時は平成27年10月17日（土）11：30から17：00まで、会場は大河津出張所です。長谷川会長を以下、友の会運営委員５名が参加。サケまつり、大河津分水巡り、パネルディスカッション、ワークショップの充実した内容のもと、お互いの交流を深めました。

② 諸般の事情により秋の研修旅行は中止します。次の企画をご期待ください。

③ **原稿を募集しています！**
『友の会通信』の「会員の研究ノート」「会員随想」「友の会伝言板」のコーナーへの投稿をお待ちしています。詳しくは友の会事務局までお問い合わせください。

－今年度未納の方へ－

会費納入のお願い

会費（年額）

一般（高校生以上）：2,000 円
小中学生：1,000 円
家族会員：3,000 円
賛助会員：１口 10,000 円

納入方法

博物館受付で直接納入するか、同封の振込用紙をご利用下さい。
本通信と行き違いで既に会費を納入された場合はご容赦願います。

編集後記／ 9月27日（日）の「星空への招待2015」に参加しました。中秋の名月は雲間からでしたが、天体望遠鏡でしばし秋の天空を堪能しました。月明かりに照らされた吉田東伍生家の庭園はとても落ち着く、何とも言えない美しい空間でした。今年は紅葉が早いように感じます。冬将軍は間近ですが、友の会は熱い活動をどんどん展開します。ぜひ御参加下さい。（H・T）